

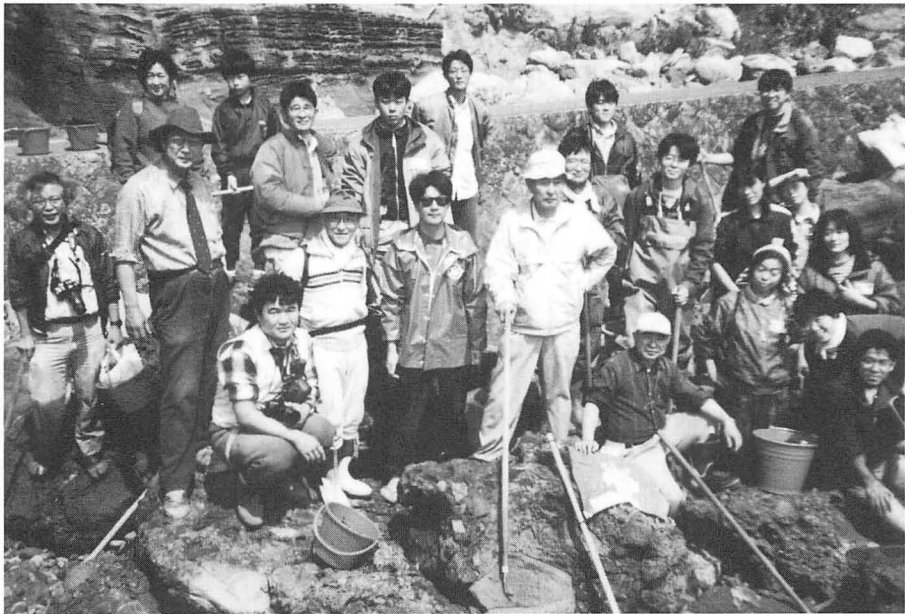
## 宮本奈保：日本藻類学会第22回大会エクスカージョン参加記 (1998年3月27日～3月29日)

日本藻類学会第22回大会が、伊豆下田の鍋田湾を一望できる下田東急ホテルにおいて、学会とは思えないような豪華な雰囲気で開催されました。

27日の大会終了後、エクスカージョン参加者は東急ホテル下に位置する筑波大学臨海実験センターに集合することになっており、エクスカージョンに参加するのも、センターを訪れるのも初めての私は、どのような人が参加し、どんな風に2泊3日を過ごすのだろう、という期待と不安を胸に集合場所の食堂に向かいました。

今回のエクスカージョンは、磯採集とシュノーケリングによる海中林観察の2つのコースがあったのですが、春の海に借りたウェットスーツで潜るのは寒そうだったのと、仕事で毎日使用している図鑑の著者である千原先生に海藻を教えていただけることが魅力で、私は磯採集コースに参加させていただくことになりました。申込時に「定員を越えているんですけど、まあ大丈夫ですよ。」と言われていたので、参加者は12、3名程度だろうと思っていたのですが、実際は定員10名の

ところを17名という大人数でした。エクスカージョンの参加は、色々な分野に詳しい方々と知り合いになれる良い機会だと思っていた私にとって、参加者が多いことは有り難く思いました。しかもいつも文献で名前を拝見している先生方が多く参加されていて、とてもうれしく思う反面、やや緊張気味でした。他の参加者の方々も私と同じようにやや緊張気味な様子でしたが、学会の色々なお世話をしてくださった筑波大学の青木先生が参加者の点呼をとられる際に「偉い先生方が多くいらっしゃるのですが、"さん"付けでお名前を呼ばせていただきます。」と前置きされたにもかかわらず、「○○さん……。すみません。すみません。」と何度も謝りながらの点呼となり、恐縮されている姿が笑いを誘って（青木先生申し訳ございません）穏やかな雰囲気となりました。千原先生は夜遅く到着される予定だったので、夕食後は同時に開催されていた大学院生向けのワークショップの講義を受けました。磯採集コースからは自由参加だったのですが、講義室に行ってみると大半の方が来られていて、皆さんとても



エクスカージョン（磯採集コース）参加者。

熱心なことに感心しました。講義は三重大の前川先生による海中林の造成を中心とした内容で、現在の藻場造成への取り組みや現況について非常に分かり易くポイントを押さえたもので、これからの私の仕事にも大いに参考となるものでした。

翌28日の朝、磯採集コースの参加者は講義室に集合し、千原先生のご挨拶に続いて、鍋田湾の潮間帯の特徴や潮汐についての簡単な講義を受けました。その後、全員が片手にバケツ、片手に海藻採集用鎌という出で立ちで出発しました。採集地はセンター近くの鍋田湾に面した岩場で、潮が引くのを待ちながらゆっくりと歩いて採集を行いました。観察を始めた頃はまだ潮が十分引いておらず、潮間帯上部から中部にかけて、ハナフノリ、ネバリモ、ウミトラノオ、ベニマダラの仲間などが多く見られました。1時間ほどして潮が引くとツノマタやイボツノマタ、タンバノリなども干出して姿を現し、また、あちこちに小さなタイドプールができてアミモユウやアオモグサ、ヤツマタモク、ワカメ、ピリヒバ、カバノリなど多くの種類が観察されました。波当たりの強い場所ではイカノアシやエゾシコロ、オオシコロも見られ、最干潮時には汀線際でオオバモク、アカモク、ヨレモクなどのホンダワラ類やアラメの幼体も多く見られました。前日にやや時化していたおかげで打ち上げの海藻も拾うことができ、午前中でバケツの中には採集した海藻でいっぱいになり、ずっしりと重くなったバケツを持ち帰りました。私は太平洋側では愛知県以南と茨城県以北の海藻しか見たことがなく、関東での海藻採集は初めてだったので、普段見慣れているつमりの海藻でも形態が大きく違ってすぐには判らないものも多く、千原先生をはじめ多くの方々に海藻の名前と特徴を教えてくださいました。

午後からは各自が採集した海藻を使って腊葉標本の作製を行いました。まず、作製手順や上手に作成するためのポイントなど詳しく千原先生に教えていただき、その後各自がバケツからバットやたらいに海藻を移し、塩抜きしたものから標本にしていきました。今までにあまり腊葉標本を作った経験がなく、教えていただいたようにしているつもりなのですが、他の方々は要領よく着々と仕上げていかれる中で、私は手際が悪くもたましてしまい、少し自分が情けなく思いましたが、時間が経つにつれて徐々に要領がよくなり、なんとか夕食までには終えることができました。名前のわからない種については千原先生に教えていただきながらの標本作製で、海藻の勉強をするのにこんなに

も良い機会に恵まれたことを心から「ラッキー」と思っていたのは私だけではないと思います(千原先生が編纂された図鑑にサインをいただいていた方もおられました)。作製した標本はすべて乾燥機にかけました。

夜7時からセンターの食堂で、エクスカーションとワークショップ合同の懇親会が始まりました。お寿司などの御馳走に加え、参加者からの差し入れのマグロをセンターの方がさばいて下さり、本当に美味しいお刺身を食べさせていただきました。懇親会では多くの方々から現在の研究について色々な情報を聞くことができ、大いに盛り上がったまま夜も更けていきました。

29日は朝8時半に腊葉標本を作製した実験室に集合し、千原先生のアドバイスを受けながら各自の作製した標本を持ち帰る準備をしました。準備ができたところで先生から簡単なまとめのお話があり、エクスカーション磯採集コースは解散となりました。

海中林についての講義、海藻採集、腊葉標本作製、懇親会とどれをとっても私にとって本当に収穫の多い有意義な2泊3日のエクスカーションでした。千原先生をはじめ、多くの方々には色々な事を教えていただくことができ非常に勉強になったので、次回のエクスカーションにもぜひ参加したいと思っています。

最後になりましたが、今回のエクスカーション磯採集コースの講師をしてくださった千原先生、そして企画・準備・運営と全てにご尽力して下さった筑波大学の横浜先生、青木先生そして学生の方々に心から感謝申し上げます。

#### エクスカーション (磯採集コース)

講師: 千原光雄 (日本赤十字看護大, 現千葉県立中央博)  
参加者: 飯間雅文 (長崎大・環境科学), 池原宏二 (水産庁遠洋水産研究所), 大野正夫 (高知大・海洋生物教育研究センター), 川嶋昭二, 北山雅彦 (愛媛女子短大), 桑野和司 (長崎大・水産), 河野繁貫 (マリン・グリーンズ (株)), 小林功 (東京薬科大・生命科学), 高橋昭善 (筑波大・バイオシステム), 寺田竜太 (北大・水産), 長谷川和清 (東水大・藻類), 平岡雅規 (マリン・グリーンズ (株)), 松永茂 (筑波大・生物), 宮本奈保 ((株) 海洋生態研究所), 守屋真由美 (筑波大・生物科学), 吉崎誠 (東邦大・理), 渡部雅博 (兵庫県西脇保健所) (五十音順, 敬称略)

(561-0808 大阪府豊中市原田元町3-3-4 (株) 海洋生態研究所)